

「私達の歩みに関わり続けて下さる神」創世記45：16－28 12・8・12

I 私達の人生には、予測のつかない事も起きる。問題や課題、人間関係の悩み、悲しみもある。そんな中で私達はただ待ち消極的にしか生きられないのだろうか。主が私達の罪の身代わりに死なれ、その主を信じて救われており、やがて主が来られることを信じている。しかし、それはやがてのこととして、今はどうなのだろうか。いつの間にか自分の信仰を天国への保証ということだけに限定して、日常の生活の中で生ける主と共に生きる信仰を見失っている事がある。聖書は天国の希望だけを教えているのではない。神は私達の日常の一切に関心を持っておられる。私達の歩みの中で私達と交わろうとしておられる。しかし、私達の側は、神を忘れ、自分の力で問題に対処しようとする。大切な事は、神との交わりの深まりを通して、すべての問題の根本的な解決が、すべての創造者であり、すべて（全世界の歴史も、私達の人生も）の支配者である神との関係の回復、深まりにあると認識する事。神は私達に語り掛け（私達の側での静まりが必要）、私達に愛をもって関わって下さるお方。実際に主と共に歩んで主の御性質を具体的に体験したペテロは「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配して下さる（原語：関心を持って下さる、気にかけて下さる）からです」（I ペテロ5：7）と語っている。神は私達の事を心にかけて私達の痛みや悩みを理解して下さって、具体的に導いて下さる。何という恵み深さ！「私たちの大祭司（主イエス）は、私たちに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです」（ヘブ4：15）。これまでのヨセフ物語を通して「神の摂理」を学んでいるが、「神の摂理」は、過去、将来の事だけではなく、正に私達の今に関わられる神の事を含んでいる。今私達に起こっているすべての事は、神の許しの中で起こっていると知る時、それには意味があると正しく捉えるようになる。自分の思い通りにはいかないという中にも神の不思議な導きがある。特別な時だけ神が臨在されるのではない。普段の生活の中に臨在される神を覚える霊的な感性が養われるように祈り求めたい。神は私達の一切の歩みに導きの手を差し伸べていて下さる。今、私達の身に起こる事の背後に神の御手がある。今は主を信じる事ができないとしても、教会に招かれ教会の礼拝に来る思いがあるとしたら、そこに神の深い配慮がある。私たち全員、教会に来ているのは、神の先行的導きと恵みのおかげ。それなしには来られない。ヨセフはついに自分の正体を明かした。自分がかつてお兄さん達が売り飛ばしたあのヨセフだと。不思議な形での再会。この事に神の摂理があった。涙を流しながら、抑えきれない思いをもって兄達との再会を喜ぶ。神による不思議→かつて、ねたみに燃えて自分を売り飛ばした兄達への復讐心や憎しみが去ってしまった。「神

はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです」：5「だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです」：8と言う。神の不思議な摂理を見事に説明している。神の導きを確信していく。ヨセフたちが経験しているのは、神の厳粛な「導き」。彼らは、不思議な経験の中でそこに働かれている神を恐れている。Ⅱ 私達も、そのような神の臨在を日常の中で経験することができる。実際に神が、私達の日常に、私達の生涯の一切の歩みの中に臨在されるから。確信が与えられても、なくなる事もある。一人では弱い。だから教会生活が大切。エジプトの王はヨセフの家族に親切。「家財に未練を残してはならない。エジプトの全土の最良の物は、あなたがたのものだから」：20とヨセフに言わせる。これは、私達にも霊的に当てはまる。地上の物に未練を残し、執着し過ぎ、心を奪われ、与え主である神を忘れてはならない。神は最良の物を私達に与えて下さる。ローマ8：32、マタイ6：31。見えない神への不信や、兄弟姉妹への不信感という問題が時々起る。神の摂理を正しく受け止める時、問題に正しく対処できる。神が私や他の人生に関わり続けて下さるという確信があれば、平安が与えられる。神から目を離して問題だけを見つめ、自分だけが被害を受けているという自己憐憫に陥っている限り、解決していかない。自分が怒りに縛られている時、摂理の御手をもって導かれる神に委ねていない。何の刺激もなく、進展もないような状況に置かれて、自分だけ取り残されたように感じる時、もう一度、私達の事を気にかけて関わり続けておられる神を見つめよう。神は、私達から遠く離れて、私達と何の関わりも持とうとしないお方ではない。どんな時でも私達のそばにおられて、私達の事を気にかけておられる。皆、悩みや課題はあるが、神を信頼して歩みたい。兄弟達は、カナンの地に入り父ヤコブに告げて行った。「ヨセフはまだ生きています。しかもエジプト全土を支配しているのは彼です」しかし父はぼんやりしていた。彼らを信じる事ができなかったからである。：25, 26。彼らはヨセフが話したことを残らず話して聞かせ、彼はヨセフが自分を乗せるために送ってくれた車を見た。すると彼らの「父ヤコブは元気ついた」：27。文字通り→「ヤコブの霊は生き返った」。この言葉は、正に私達が神の言葉を聞いて、聖霊の力により霊的に覚醒させられること。聖霊により新しく生まれる新生の体験と同じ言葉。素晴らしい経験。理解できなかった神の事、救いの御言葉が理解できるという奇蹟的な体験。神が、背後で働いていて下さることがわかる恵み。「神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください」詩51：10。どんな時にも、神の偉大な摂理、御支配、御計画を認め、私達に語り掛けて下さる神の細い御声を聞くことができますように。そして、御聖霊により、日々新しくされ、御言葉を理解する者に変えられ続けますように。